

商品名 トラベルミン配合錠 添付文書情報

一般名	ジフェンヒドラミンサリチル酸塩・ジプロフィリン錠	薬価	6.10
規格	1錠	区分	
製造メーカー	アルフレッサ ファーマ	販売メーカー	アルフレッサ ファーマ エーザイ
薬効	1. 神経系及び感覚器官用医薬品 13. 感覚器官用薬 133. 鎮暈剤 1339. その他の鎮暈剤		

トラベルミン配合錠の組成・成分

1錠中

ジフェンヒドラミンサリチル酸塩：40mg

ジプロフィリン：26mg

トラベルミン配合錠の用法・用量

通常成人1回1錠を経口投与する。必要により1日3～4回経口投与する。なお、年齢、症状により適宜増減する。

トラベルミン配合錠の効能・効果

次記の疾患又は状態に伴う悪心・嘔吐・めまい：動揺病、メニエール症候群。

トラベルミン配合錠の副作用

次の副作用があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

2. その他の副作用：

- [1] 過敏症：（頻度不明）発疹。
- [2] 循環器：（0.1～5%未満）動悸。
- [3] 精神神経系：（0.1～5%未満）眠気、倦怠感、頭重感、めまい、（頻度不明）頭痛、神経過敏。
- [4] 消化器：（0.1～5%未満）口渇、（頻度不明）悪心・嘔吐、下痢。

トラベルミン配合錠の使用上の注意

【禁忌】

1. 閉塞隅角緑内障の患者〔抗コリン作用により眼圧が上昇し、症状を悪化させることがある〕。
2. 前立腺肥大等下部尿路に閉塞性疾患のある患者〔抗コリン作用により、排尿困難、尿閉等があらわれるおそれがある〕。

【重要な基本的注意】

眠気を催すことがあるので、本剤投与中の患者には自動車の運転等危険を伴う機械の操作には従事させないように十分注意すること。

【合併症・既往歴等のある患者】

1. 開放隅角緑内障の患者：抗コリン作用により眼圧が上昇し、症状を悪化させることがある。
2. てんかんの患者：中枢刺激作用によって発作を起こすおそれがある。
3. 甲状腺機能亢進症の患者：甲状腺機能亢進に伴う代謝亢進、カテコールアミンの作用を増強するおそれがある。

【腎機能障害患者】

- 1) 急性腎炎の患者：腎臓に対する負荷を高めるおそれがある。

【妊婦】

治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。

【授乳婦】

授乳しないことが望ましい（ジフェンヒドラミンは、動物実験（ラット）で乳汁中に移行することが認められており、ヒトでは哺乳中の児において昏睡が認められたとの報告がある）。

【高齢者】

減量するなど注意すること（一般に高齢者では生理機能が低下している）。

【相互作用】

2. 併用注意：

- [1] 中枢神経抑制剤（バルビツール酸誘導体、フェノチアジン誘導体等）、アルコール〔本剤はジフェンヒドラミンサリチル酸塩を含有しているため、相互に作用を増強することがあるので、併用する場合は減量するなど慎重に投与すること（相加的に中枢神経抑制作用を増強する）〕。
- [2] モノアミン酸化酵素阻害剤〔本剤はジフェンヒドラミンサリチル酸塩を含有しているため、相互に作用を増強することがあるので、併用する場合は減量するなど慎重に投与すること（本剤の解毒機構に干渉し、作用を遷延化し増強する）〕。
- [3] 他のキサンチン系薬剤（テオフィリン、アミノフィリン水和物、コリンテオフィリン、カフェイン水和物等）、中枢神経興奮薬（エフェドリン塩酸塩、マオウ等）〔本剤はジプロフィリンを含有しているため、過度の中枢神経刺激作用があらわれることがあるので、異常が認められた場合には減量又は投与を中止するなど適切な処置を行うこと（併用により中枢神経刺激作用が増強される）〕。

【適用上の注意】

1. 薬剤交付時の注意：

- 1) 本剤は、噛みくだと苦味があり、舌のしびれ感があらわれることがあるので、噛まずに服用させること。
- 2) PTP包装の薬剤はPTPシートから取り出して服用するよう指導すること（PTPシートの誤飲により、硬い鋭角部が食道粘膜へ刺入し、更には穿孔をおこして縦隔洞炎等の重篤な合併症を併発することがある）。

【取扱い上の注意】

アルミ袋開封後は湿気を避けて保存すること。

【保管上の注意】

室温保存。



Copyright© 2005-2025 e-pharma All rights reserved.